

## 文庫めぐり

(2)

## 宮内庁書陵部

〔来歴と概要〕

書陵部は宮内庁の五部局の一つで、戦後、図書管理を行う図書寮と、御陵の管理を行う諸陵寮が合併して組織された。宮廷の図書管理は元来、「大宝律令」に制定された中務省の図書寮に由来し、久しく絶えていたが、明治十七年、宮内省に図書寮が復興された。

現在蔵書数は約四〇万点とされ、皇室伝来図書、四親王家旧蔵書、公家・地下旧蔵書、幕府紅葉山文庫旧蔵貴重書、江戸時代の大名・武家・学者の旧蔵書、維新後政府各省蒐集の貴重書などから成る。

古医学書は国書・漢籍の別を問わず、昭和二十六年刊の『和漢圖書分類目録・下』の医学の部に登載されており、『総説・雑書』三二点一〇一冊、「和漢古方」二八八点三三二冊、「解剖」三二点五八冊、「生理」二二点五四冊、「病理」二点一三冊、「衛生」二二点二九冊、「内科」二二点二八冊、「外科」五二点四七冊、「産科・婦人科」二二点六冊、「小児科」二点一冊、「皮膚科」二点一冊、「眼科」二二点九冊、「獣医学」二二点四八冊、また本草の部には「本草」七二点八九〇冊、総計四六三三三三七冊が収録されている。旧蔵者はさまざまであるが、やはり何といっても貴重性の高い書は内閣

文庫を経由したものであろう。

明治二十四年、政府は国家の貴重図書の永久保存を目的に、政府各省から選りすぐった善本貴重書を宮内省図書寮に収蔵した。とりわけ内閣文庫より精選された特別貴重書約三万点は質量ともに群を抜いていた。すなわち紅葉山文庫や江戸医学館の旧蔵にかかるもので、医薬書では中国の宋版・元版、朝鮮の古版本（活字版等）、日本の古鈔本、古活字版など、この世に唯一無二の絶品が揃っている。質的にはむろん日本で最高。中国版・朝鮮版においても当の中国・

朝鮮の図書館をはるかに凌駕するものがある。  
〔蔵書目録〕 『和漢書分類目録』、宮内庁書陵部編、一九五三。

〔所在地〕 〒100-0001東京都千代田区一―一。 ☎〇三―三二一三一―一一一。

〔利用法〕 所属する研究機関の長の依頼書を必要とし、それを添付の上、利用目的・身分・閲覧希望文献の書名および函架番号・閲覧希望日を明記し捺印した閲覧許可願を文書にて送付すれば、審査の上、図書閲覧許可証が交付される。宋版・古鈔本などの貴重書の閲覧は多く複製本にて行われる。複写は申し込めば、マイクロフィルムからの焼付、もしくはポジフィルムにて交付される。

(小曾戸 洋)